



提供:高岡市

令和が二年目を迎え、「初春の令月にして、気淑く風和ぎ」の思いとは裏腹に、我が国も世界中も新型コロナウイルスの感染拡大で大混乱をしております。市民の皆様にはこのような中、日頃から本市の自治会活動に格別なご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。私共、先般の高岡市連合自治会総会におきまして、図らずも、会長の重責を担うこととなりました。浅学非才の身でありながら、皆様方のお力添えを頂きましたが、誠心誠意与えられました職責を果たしたいと存じますので、何卒、前任者同様の温かいご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、財政再建の途上にあります高岡市にとりまして、今般、さらにコロナ対策として新しい生活様式が加わり、経済社会活動の自粛が求められることで、市民生活への影響も心配されて



会長あいさつ

高岡市連合自治会
会長 浦田 一郎

おります。また、近年は人口減少や少子高齢化が進んで、各地域で人々のつながりが希薄になり、自治会活動の維持・継続が困難な状況も見られるようになっております。しかしながら自然災害が頻繁に起きたり、コロナ禍のような非常事態にあっては、自治会は人々の最も身近にあって拠り所となる組織として、その役割も、これまで以上に期待されております。まさに連合自治会にとりましても喫緊の課題でありますので、状況改善に全力で取り組むとともに、引き続き市当局ならびに行政機関と一層協力致しまして、これから活動を進めてまいりますので、皆様方の変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。挨拶と致します。

役員・会員の紹介 (令和2年度)



会長 浦田 一郎(佐野)



副会長(総務) 角玄 富雄(戸出)



副会長 大坂 昭輔(牧野)



副会長 宇波 真一郎(定塚)



副会長 矢竹 有至(福岡)



理事(会計) 杉森 利二(守山)



理事 米島 義三(下関)



理事 藤田 晴久(西条)



理事 橋本 善明(能町)



理事 小栗 久雄(二塚)



理事 森田 和夫(福岡)



理事 杉本 進(立野)



理事 増井 俊一(太田)



監事 杉本 孝之(国吉)



監事 山本 睦男(北殿若)



監事 出口 勇(大滝)



相談役 杉江 幸男



会員 和田 徹(平米)



会員 古國府信二(博勞)



会員 佐賀 儀明(横田)



会員 下山 実(川原)



会員 牧 隆(成美)



会員 山口 征市(二上)



会員 大庭 和之(野村)



会員 月安 幸三(木津)



会員 広地 功信(小勢)



会員 前田 義弘(東五位)



会員 橋 信一(石堤)



会員 坂 廣志(伏木)



会員 牧野 光男(古府)



会員 佐伯 正則(霞麓)



会員 上田 義一(是戸)



会員 道谷 悦一(中田)



会員 澤中 幹夫(山王)



会員 田畑 公生(五位山)



会員 山崎 久栄(赤丸)

編集後記

去る六月十日に、高岡市連合自治会定期総会が開催されました。今回は役員改選が行われ、浦田会長新体制のもと、役員・会員一同、多様化する地域課題の解決に取り組んでいこうと決意をあらたにしました。

◆ 本稿では自治会長変更の際に必要な申請・届け出について取り上げました。各自自治会で会長交代の際の引き継ぎ事項に加えていただき、届け出漏れ防止にご協力をお願いします。

◆ 結びに、お忙しいところ、貴重な原稿をお寄せいただきました方々に深く感謝申し上げます。

編集委員
矢竹 有至(記)
藤田 晴久
森田 和夫
杉本 進

令和二年度 定期総会の開催

六月十日、ホテルニューオータニ高岡において本年度定期総会が開催されました。

総会では、令和元年度事業報告・収支決算報告、令和二年度事業計画（案）・収支予算（案）、役員補充が審議され、原案どおり承認されました。

令和元年度の主な活動内容及び令和二年度の事業計画は次のとおりです。

令和元年度に実施した主な事業

- ・「市連自治会だより」編集委員会（5・6月）
- ・総会及び市当局市議会との懇談会
- ・県内視察研修（6月）
- ・県西部地域自治会長会研修会（8月）
- ・「市連自治会だより」の発行（8月）
- ・市当局との懇談会（8月）
- ・県連・高岡ブロック会議（9月）
- ・県外視察研修（11月）
- ・令和二年度高岡市に対する要望書提出（11月）
- ・令和元年度富山県知事に対する要望書提出（12月）
- ・市当局との新春懇談会（1月）

令和二年度の主な事業計画

I 高岡市連自治会は、市勢の発展と住民が安心して暮らすことのできる豊かで明るい地域社会づくりを寄与するため、各校下（地区）連自治会相互の連携の基に、行政及び関係団体と相互協力・協調を図り、持続的な地域活動に努めるために次に掲げる事業を行うとともに、特に本年度はコロナ禍に打ち克つことを目指す。

II 事業内容

- ①高岡の魅力を活かしたまちづくりへの提言
- ②安全で安心なまちづくりの推進
- ③人材育成と地域福祉の増進
- ④環境美化・保健衛生の促進
- ⑤先進地視察等研修・地域への情報発信
- ⑥持続的な地域活動に向けた取組み

栄誉に輝く

■春の叙勲

大坂 昭輔 氏（牧野）

■総務大臣表彰

杉森 利二 氏（守山）

■市功労者表彰

高木 達郎 氏（野村）
松浦 士朗 氏（中田）
森田 和夫 氏（福田）

石堤小学校の 閉校によせて

石堤地区連自治会長 橘 信一

明治時代に設立された石堤小学校は、令和2年3月29日に127年にわたる教育の場としての歴史に幕を閉じました。五位中学校区には石堤小学校のほか、東五位小学校、千鳥丘小学校があります。この小学校統合の話は十数年前に始まり、その間、地域では何回も話し合いの場が持たれました。前会長の細川俊治さんの熱心な計らいにより石堤地区は統合を受け入れ、協力することとなりました。



さて、実際に統合を検討していくと、「校舎はどうなるの?」「スクールバスは出るの?」「学童クラブはどうなるの?」等、様々な問題が見つかりました。これらについては石堤地区だけでなく、東五位、立野、小勢地区にも加わっていたいただき、市と協議を進めました。

また、この五位小学校への統合を進めるにあたっては、あらためて五位中学校区における4地区の一体感を強く感じたところです。

協議の結果、体育館とグラウンド、校舎は活用していくことになりました。そして子どもたちは加越能さんの路線バスを利用したスクールバスで元気に通っています。

小学校は昔から地域の活力の拠点であり、象徴となってきました。私の親世代が愛着を込めて小学校のことを「おらが学校、わしの学校」と言っていたことは今も記憶に残っています。子どもたちのいない小学校になったことは寂しいことではありますが、決して悲しいこととは思いません。今後、既存の体育館、グラウンド、そして校舎を地域で上手に利用し、活力の場としたいと思っています。例えば、体育館、グラウンドは地域の各スポーツやイベントに、校舎は公共施設として、市立公民館や学童クラブの設置も検討しています。

地域住民のたくさん思い出の詰まったきれいな石堤小学校を、今後も多く思い出が生まれる場となるよう住民一丸となって育てていきたいと思っています。

自治会の会長が代わった場合は届け出をお願いします

自治会長のみならずには公共工事（道路・電気など）や、行政からの情報などを連絡しています。また、自治会加入を希望する転居者等に対しては自治会長の連絡先をお伝えすることがあるため、会長を変更した場合は必ず届け出るようご協力をお願いいたします。変更届の提出が漏れていると、旧会長へ連絡されることとなります。

【提出が必要な書類】

■役員変更届出書

※会長・副会長のほか、美しいまちづくり推進員（保健・衛生担当者）、広報の担当者・配布部数の変更についても届け出ください。

●届け出の提出先・お問い合わせ先

高岡市共創まちづくり課
（☎0766-20-1326）



◆認可地縁団体の場合は：

認可地縁団体（法人化している自治会）はさらに、法律で提出が義務付けられた事項（代表者の変更など）に変更があった場合、以下の届出・申請が必要です。

【提出が必要な書類】

（認可地縁団体のみ）

■告示事項変更届出書

・議事録、代表者の承諾書を添付

※規約（会則）変更の場合

■規約変更認可申請書
・議事録、新旧対照表などを添付

自治会に関する申請・届出書



※各種申請書・届出書は高岡市のホームページからダウンロードができます。

「ゆず」から始まる 地域再生!

GOIYAMA 地域活性化大作戦

五位山地区自治会連絡協議会会長 田畑 公生

私達の五位山地域は、西明寺、栃丘、小野、五位、沢川の5つの単位自治会からなり、人口約400名160世帯の中山間地域にあります。

地域では、春は「竹の子まつり」、秋には「秋の収穫祭」といった季節に応じた交流イベントを「とやま・ふくおか家族旅行村」を拠点に毎年開催しております。「ロジ山ぼうし」には、天然温泉があり人気のスポットです。イベントには、市内外から毎年多くの来場者の方が参加され「今年も来たよ!」と笑顔いっぱい参加されており私達も毎年楽しみに開催しております。

さて、今回ご紹介するのは、五位山地域で特産化を目指して活動している「ゆず」についてです。当地域のゆずは、主に栃丘地域で栽培されており、皮が厚く香りが強いことが特徴です。

この、ゆずを地域資源として活用できないかと、平成30年度から取り組みを進めています。はじめは、何ができたか何を作るのかと講師を交えてアイデアを出しあい「ゆず味噌」「ゆずケーキ」「ゆずのはちみつ漬け」などを試作してみました。

その中から、「ゆずケーキ」に着目していくこととし、福岡地域のイベント



ト開催時において（11月開催）ふくおか産業フェスティバルなど、来場者のみなさんへケーキの試食やアンケート調査などを実施し調査結果をもとに、次はこうしたらいいよと、さらなる工夫を重ねアイデアをだしながらより良いものを作りあげようとみんなで目標の商品化を目指しています。

ゆずの木の手入れについても、3月に剪定講習会を開催し、「収量を増やすためには密集している枝を切る。日当たりと風通しを良くする。」など講師のアドバイスを受け、地域全体の大切な資源として管理を行っています。最後に、まだ取組みは途中ではありますが、GOIYAMA（五位山）の豊かな自然の恵みやここにしかない「地域ブランド（竹の子・ゆず）」を活用しながら一人ひとりが主役となり、自分たちの地域に誇りを持てるような地域を目指し今後研鑽をつんでまいりたいと考えています。今後とも変わらぬご支援とご協力のほどよろしく願います。

追伸 栃丘地域では最近、赤ちゃんが3人続いて誕生し、皆さん嬉しい日々を送られています!